



NO. 377

2024. 11. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 長谷川 美智代
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<https://city-osaka-ikuseikai.or.jp>
定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

第9回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会
秋田大会が開催されました

10月12日・13日にあきた芸術劇場「ミルハス」で、第9回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会・秋田大会が開催されました。

大会初日の育成会大会では4つの分科会が設けられ、第1分科会では児童期の課題について、第2分科会では成人期の課題について、第3分科会では高齢期の課題について、第4分科会では権利擁護の課題について討議がありました。また、本人大会では「私の夢」についての話し合いや、軽スポーツ、手作りワークショップ、バスツアーの4つの分科会が設けられました。

大会2日目には全体会があり、式典とシンポジウムがありました。

全体会の報告について

事務局長 飯塚 聡

大会2日目は、あきた芸術劇場「ミルハス」の大ホールで全体会が行われました。

大会式典では、佐々木会長から開会の挨拶があり、その中では1月の能登半島地震の後、育成会として現地調査を行い、被害に遭われた育成会会員に対して全国各地の会員でサポートをしていくために義援金募集をしていたところ、夏の豪雨や台風などで北陸や東北でも水害が発生し、被害に遭われた育成会会員もいることから、義援金の募集を令和7年3月まで継続するので協力をして欲しいとありました。

また、近年では各育成会で会員減少もあるが、親の立場での漠然とした不安に対し、解消をしていくために、全国各地に組織を有している育成会だから国に提言ができることもあると話されました。



【式典／あきた芸術劇場「ミルハス」】

式典の後には、「知的障害者福祉の未来」をテーマに、又村あおい氏をコーディネーター、田中正博氏、野澤和弘氏、大塚晃氏、藤井慶博氏をパネリストにした全体会シンポジウムがありました。

最初に大塚氏からは、障害者権利条約の勧告もあり、今年4月の障害者総合支援法の見直しにより意思決定支援が重視されるようになったことや、知的障がいの定義と療育手帳の全国統一化に向けた検討が進められるとありました。

次に田中氏からは、のぞみの園が国の直営から独立行政法人化された際、終生保護から地域移行へと施設の目的が変化し、知的障がい者の高齢化や強度行動障がいへの支援について、国の研究事業として実施していることについて報告がありました。

次に野澤氏からは、法制度が充実して福祉サービスが増加したが、本当に本人が望む生活なのかと問題提起があり、その中では意思決定の大切さを話されました。また、インクルージョン（共生）と言われているが、その先には、ピロング（所属）、エンゲイジメント（愛着）ということで、ただ一緒にいる、包み込まれているだけでなく、自分が所属しているところに何かしらの役割があり、自分の立